

日本の伝統を受け継ぐ



石川県伝統の着物「加賀友禅」。本市出身の加賀友禅作家で若手の有望株として活躍する古泉良範さんは、12年の修業を経て、平成19年に独立した伝統工芸士です。

加賀友禅は、武家文化の中で生まれた着物で国指定の伝統工芸品です。気品漂う落ち着いた色合いで草花を描くのが特徴。布に直接絵柄をデザインするため、作家の個性が出るそうです。古泉さんは、世界に「ただの着物を、思いを込めて作り上げる」ことだけの世界を究めようとしています。

そもそも、高校、大学とデザインを専攻してきた古泉さん。大学卒業後、「自分がデザインした着物を永く大事にしていただけ。」ところに魅かれ、着物作家を志したといいます。「独立するのはむずかしい世界。最初は食べていけるか心配でした。地道な下積みがあったから今があります。」と振り返ります。デザインは、センスも問われるため、流行にも敏感。「気が乗ったときは、頭の中にデザインが降ってきます。新しいものを創造するのは大変ですが、毎日楽しい。」と、プロの顔をのぞかせます。

古泉さんは現在、東京オリソニックの開会式で各国の選手団に着物を着用させるプロジェクトに携わり、ウズベキスタン共和国代表の着物をプロデュースしています。「日本の伝統文化にたくさんの人に親しんでほしい。大村も城下町ですし、着物文化がもつと広まるとうれしいですね。」と古泉さん。これからもこだわりの世界で日本の伝統を受け継いでいきます。

加賀友禅作家・伝統工芸士

古泉 良範さん



クローズアップ

大村人

vol.23

このコーナーは、ふるさとを思いながら、市内外で活躍する大村人、を紹介していきます。

Profile

こいずみ・よしのり
昭和47年12月4日生まれ
長崎日大高、日本大学芸術学部芸術学科卒。加賀友禅作家に弟子入りし、12年修業を積む。平成19年に独立し、その翌年伝統工芸士に認定。平成21年に石川県知事賞の受賞をはじめ、数々の賞に輝く。石川県在住。44歳。

